

第2章 二次試験対策

2.1 勉強方法、心構え

「学問に王道なし」とよく言われます。しかし、もし王道があるとすれば、それは「人に教えること」か「試験を受けること」だと思います。

先日、英国に留学していた頃の友人(日本人)から、「最近、英語力が落ちている。どこか英語を教える場所ないかな。」と聞かれました。「英語を教えてくれる場所ないかな。」の間違いはありません。教えるというのは、単に理解したというのに比べ、遥かに高いステージにあります。相手の反応を見ながら理解していないと判断すれば、即座に別の角度から説明しなければなりません。逆に言えば、相当の準備が必要であり、そのための勉強も必然的に量、質ともに高いものになります。

技術士の中には、複数の部門に合格している人が結構います。彼らの勉強法の一つは、人に教えることです。一部門目の資格をもって、技術士として他部門の受験生も含め教えます。そして、受験勉強をそれほど意識することなく二部門目も通過してしまうというパターンです。実は一番得ているのは、教えている人たちなのです。

残念ながらJABEE修了生の皆さんが、いきなり「人に教える」立場になることはないと思います。しかし、受験生同志でお互いに得意分野を教えあうことはできるはずです。もし身近に同じ立場の受験生がいなければ、家族など身近な人を相手教えても結構です。より説明が大変になる分だけ、効果は大きいでしょう。ぜひ、人に教えることで、量、質ともに充実した準備をしてください。なお、口頭で教えれば、面接試験の準備にも繋がります。

「人に教えること」と同様に効果的なのが、「試験を受けること」です。当たり前ではないか、試験を受けないことには合格はないのだから、と思われるかもしれませんが、もっともですが、ここで言いたいのはそういうことではありません。

まず重要なのは、試験を受けることが、勉強のモチベーションになることです。「人に教える」と同様にまったなしの状態になるわけですから。また、試験日が決まっていることで、そこに目標を絞った計画を立てることができます。やはり時間軸にそった具体的な目標がなければ、勉強は続きません。次に、仮に準備が間に合わず100%落ちるとい確信があっても、必ず受験してください。このときの体験(会場の雰囲気、試験の時間配分など)は必ず次の年に生きます。また具体的にはコラム2に記しますが、試験会場まで行けば、必ず何か得られるものがあります。